

ニツ山古墳1号墳(太田市)

前方がニツ山古墳1号墳/前方後円墳/手前に標柱が立っている



近づいて見たところ/右手前が後円部、左奥が前方部/説明坂が見える



標柱と説明坂



二段築成で周囲には堀跡が認められると云う/6世紀後半から7世紀初めの築造/寺井廃寺、新田郡衙に関連するようだ

群馬県指定史跡
ふたつやまこふんいちごうふん
ニツ山古墳一号墳

指定年月日 昭和二十三年十一月二日
所在地 太田市新田天良町一六七―八五―乙

ニツ山古墳一号墳は、この地域に所在した古墳群の一つで、南東に近接する二号墳と共に、前方後円墳である。かつては周辺にいくつかの円墳が見られたが、現在は残っていない。

この古墳は、主軸を北西から南東にとり、全長七十四メートル、高さ六メートルで、二段に構築され、周囲には堀跡が認められる。墳丘はよく原型を保ち、下段の平坦部には二重にめぐらされた円筒埴輪列のほか、人物・馬などの埴輪列があり、墳頂部からは家形埴輪が出土した。

石室は、明治二十一年（一八八八年）に発掘され、南南西に開口している横穴式石室である。奥行は約七メートル、高さ約一・八メートルから二・一メートル、奥壁は一石、側壁は下部に大型の石を並べ、上に行くに従い徐々に小さくなる傾向がある。石室内からの出土品は、刀剣類、馬具等があり、東京国立博物館に保管されている。

この古墳の特徴としては、円筒埴輪の配列により、前庭状の施設が設けられている点が挙げられる。

築造年代は古墳文化が終末期に入ろうとする六世紀後半から七世紀の初めと考えられている。その規模から、ニツ山古墳群の中樞をなしていたものと思われる。また南方の寺井廃寺、新田郡衙との関係を考える上で貴重な古墳である。



平成二十七年三月二十五日

太田市教育委員会

上がニツ山古墳1号墳



後円部から前方部方向を見たところ



南東側から後円部を見たところ



少し退いて見たところ/堀跡の感じが掴めるかも



右手で後円部から前方部方向を見たところ



北東側から見たところ/左手が後円部、右手が前方部



そこで左手の後円部を見たところ



同じく右手の前方部を見たところ



これは北西側から前方部を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



右手で前方部から後円部方向を見たところ



これは南側から全景を見たところ



アップで見たところ



そこで左手の前方部を見たところ



同じく右手の後円部を見たところ



さて、後円部の南側に大きな石が転がっていた/石室に関するものだろうか



正面は後円部南側に開口する横穴式石室



中を覗いてみよう



こんな塩梅/無袖式で、自然石乱石積み/奥壁は一枚石



これは墳丘に登って後円部から前方部方向を見たところ



振り返って南東方向を見たところ/前方にニツ山古墳2号墳が見える



くびれ部と前方部を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



ここが前方部



前方部墳頂



その先の北西方向を見たところ



振り返って前方部から後円部方向を見たところ



くびれ部と後円部を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



ここが後円部



後円部墳頂



ニツ山古墳1号墳から南東方向にあるニツ山古墳2号墳を見たところ



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/nitta_hutatu1/

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/nitta/futatu.htm>

<https://mukidouan.exblog.jp/4106261/>

<http://hazukimap.sakura.ne.jp/guide/10g/10205oota/10205S009.htm>

<https://ameblo.jp/fookky/entry-12338139174.html>

<http://obito1.web.fc2.com/oota.html>

